



▲料理を楽しむ親子と女性部

JA女性部三原地区本部は8月23日、三原市の本郷生涯学習セン

フレッシュミズ研修会

旬の野菜で料理教室

ターでフレッシュミズ研修会を開き、料理教室を行ないました。参加した9人が、雑誌「ちやぐりん」掲載のレシピを参考に「焼きトウモロコシおにぎり」や「ナスのチーズステーキ」など旬の野菜を使った4品の料理に挑戦しました。

料理教室では、女性部が講師となり、参加者と交流しながら調理。完成した料理をみんなで味わい、作って食べる楽しさを体験しました。

参加者は、「家で子供とゆっくり料理をする余裕がないのでこのような機会をつくっていただけてありがたい」と話しました。



▲イチジク「蓬萊柿」を収穫する益盛会長

イチジク「蓬萊柿」出荷スタート

JAひろしま竹原イチジク研究会は8月27日、竹原市のJA吉名選

果場にイチジク「蓬萊柿」の出荷を始めた。同研究会は5戸が約1haで栽培し、10月下旬までに約7tの出荷を見込んでいます。今年は、猛暑と少雨により例年より1週間程遅れての出荷となりました。

27日には同選果場で目合わせ会を開き、生産者やJA職員ら14人が参加。等階級別に並べたイチジクの熟度や色合い、果頂部の割れ具合などを入念に確認し、品質基準を統一しました。

同研究会の益盛敏正会長は「例年より小玉傾向だが糖度は十分。美味しく仕上がっているため是非食べてもらいたい」と話しました。



▲入念に新米を検査する農産物検査員

JA三原地域管内で9月3日より、令和7年産米の出荷・検査が始まりました。11月下旬までに管内11検査場で計約2,700tの検査を予定しています。

令和7年産米 出荷・検査始まる

検査は、生産者が丹精した米を基準に沿って適正に判別する重要な工程です。JAの農産物検査員が米粒の形や色、大きさ、水分量、病害虫被害の有無を入念に検査し、等級を格付けします。

同地域営農経済センターの林康輝センター長は、「今年は高温や少雨、カメムシ被害など厳しい条件が続く、水管理や防除などの対策を呼びかけた。検査は順調に進んでいる」と話しました。



▲果実肥大を計測する広島果実連技師

高品質な柑橘へ 生育調査

JAせとだ柑橘事務所は8月13日、尾道市瀬戸田町でミカン、

中晩かん、レモンの主力となる柑橘10品種の肥大調査を行ないました。調査時点では平年より大玉傾向にあり、生育は順調です。毎月1回収穫期まで調査を続け、生育状況に応じた管理指導を進めます。

同事務所では肥大調査と並行して果汁分析も実施。糖酸を計測し、肥大データと共に生産者と共有する事で、収穫時期の判断や品質向上に役立てます。

JA広島果実連の松浦道郎技師は「巡回を通じて病気や獣害の被害状況も把握し、今後も適切な管理指導に努める」と話しました。



水稲

稲わらの有効活用

収穫後の稲わらは、すき込んでしっかりと腐熟させることができれば、地力増進を図る有効な有機物資源となります。

異常気象などの状況下においても収量を確保するためには、稲わらは持ち出しや焼却せず、土壌に還元することが重要です。

ただし、稲わらの腐熟が不十分だとガスわきや浮きわらなどの様々な障害が発生します。

稲わらの腐熟を促進させるには、地温が高い秋のうちにすき込むのが重要です。また、窒素成分や稲わら腐熟促進資材と一緒にすき込むとより効果的です。

土壌診断がお勧めです!!

JAひろしま(三原地域)では、「土壌診断推進事業」に基づき、今年度も土壌診断を無料で受け付けております。診断の申込み等は各アグリセンターへお問い合わせください。

柑橘

10月からは極早生みかんとしモンの出荷が始まります。出荷前には必ず栽培管理履歴書(兼)生産誓約書を提出し、出荷していただくようお願いいたします。

資材名	特 長	使用法	写 真
秋施用 石灰窒素	窒素成分の供給と土壌pHを調整することで、稲わらを分解する微生物の増殖に好適な環境をつくります。	すき込み時、 10aあたり10~20kg	
秋~春施用 アグリ革命 (細粒)	酵素の力で稲わらを分解します。 微生物と違い、土壌環境に影響されることなく、短時間で効果を発揮します。 省力資材でドローンでの散布が可能です。	10aあたり2kg 降雨後や朝露など水分がある時に散布	
秋~春施用 アグリ革命アクア (液剤)		10aあたり100ml 10~500ℓに希釈して散布	



コンテナ用衝撃軽減マット



収穫カゴ用衝撃軽減マット

●摘果

早生・いしじで着果量が多い樹は小玉果や傷果を中心に適正結果量まで摘果します(葉果比25)。特に果実と果実が接触する部分にアザミウマの被害が発生しやすいため、密着した果実は摘果しましょう。

●収穫・選別

極早生みかんは着色基準に達した果実から収穫を行ないます。軸は2度切りし、軸長にならないように注意してください。選別は明るい場所で行ない、生傷果や日焼け果は排除してください。レモンは果実に衝撃を与えるとこはん症が発生しやすいため、丁寧に扱ってください。収穫がこやコンテナに緩衝材を用いるのも有効です。

●病害虫

(アザミウマ類)

温州みかん、はるみ、ネーブルなどを中心に秋期のアザミウマ類被害が目立っております。着色期にスピノエースフロアブル6,000倍(7日前、2回以内)を散布しましょう。

(ミカンハダニ)

ハダニが発生している場合はコロマイト水和剤2,000倍(7日前、2回以内)を散布しましょう。

落葉果樹

今月は、収穫が終了した品目や終盤を迎えている品目があります。樹体では、気温の低下とともに落葉までに貯蔵養分を蓄え、次年度へ向けて準備を始めています。

収穫

カキは果皮色を目安に収穫期を判断します。「富有」では果実全体で判断し、「西条柿」はヘタ部と果頂部で判断します。熟期が進み収穫が遅れると果頂部が軟化するところがあるため注意します。

イチジクは、気温の低下とともに小玉果や着色不良果が多くなります。食味不足と感じたら早めに収穫を切り上げます。

キウイフルーツは、成熟期の果実硬度が高く、果皮色に変化しないため、収穫適期の判断が難しいです。産地では、糖度6~7%を目安とす

ることもありますが、おおよそ今月中旬くらいから収穫を開始します。収穫が遅くなると霜害を受け貯蔵性が劣ることがあります。

引き続き、品目に関係なく収穫する際は、品質を維持するため果実温の低い早朝に収穫することが望ましいです。

カキの脱渋方法

「西条柿」など渋ガキは収穫後に渋味が残っているため脱渋を行う必要があります。脱渋方法は、ドライアイス脱渋やアルコール脱渋などがあります。

肥培管理(土づくり・元肥の施用)

毎年高品質果実を生産するためには、樹が細根を多く発生し、養水分を安定的に吸収できるような土壌環境にすることが重要です。そのために、堆肥等の有機物の投入や石灰質資材を施用し、根が活動しやすい環境を整えましょう。有機物投入の際は、必ず完熟した堆肥を投入します。腐植が不十分な堆肥の投入は、白紋羽病の発生や生育阻害等の要因となりますので絶対に投入しないようにしましょう。未熟な堆肥の見分け方は、強い臭いが残っている、水分含量が多くベトベトしている、堆肥が黒褐色ないし黒色ではなく堆肥原料のままの色をしている等を確認します。

また、翌春の根の活動開始時に肥料がしっかりと吸収できるように元肥を施用します。品目ごとの施

表1 施肥(元肥)と土づくり

*施肥量等は成木1樹当りの量

品 種	成木10a当り 植付け本数 (目安)	施 肥 (ひろしまフルーツ元肥866)		堆 肥		マリンカル (苦土石灰)		粒状エコマグ	
		時期	施肥量	時期	施肥量	時期	施肥量	時期	施肥量
モモ	25本	10月	3.0kg	10~11月	2袋以上	10~11月	4.0kg		
カキ(富有)	25本	10/下	3.5kg		2袋以上		4.0kg		
カキ(西条)	20本	10/中	4.0kg		2袋以上		5.0kg		
イチジク	27本	10/下	3.5kg		2袋以上		4.0kg	客土(マサ土を2~3cm)	
ブドウ(ピオーネ)	長梢12本	10月	5.0kg		4袋以上		8.5kg	10月	3.0kg
	短梢27本	10月	2.4kg		2袋以上		4.0kg	10月	1.4kg
ブドウ(キャンベル)	長梢15本	10月	8.0kg		4袋以上		7.0kg	10月	1.0kg
ブドウ(ベリーA)	短梢30本	10月	4.0kg		4袋以上		3.5kg	10月	0.7kg
キウイフルーツ	20本	10/中	4.0kg	1~2月	3袋以上	1~2月	5.0kg	客土(マサ土を2~3cm)	

堆肥は10a当り1t以上の施用を目標に設定。ただし、未熟な堆肥は施用しない。
粒状エコマグ…天然水マグに天然硫マグを混合した苦土肥料。ケイ酸、鉄、マンガン、ホウ素含有。

用時期・量は表1のとおりです。施肥基準(成木1樹あたり)を参考に施用してください。

家庭菜園

涼しい季節となってきました。それでも平年に比べるとまだ気温が高い日が続いております。引き続き体調管理にはお気を付けください。

さて、今月は秋植えで来年の春に収穫を行なう野菜(玉ねぎとソラマメ)の肥培管理にかかる注意点を説明します。これらの野菜は年内に大きくしすぎない管理が特に重要となります。

玉ねぎ

秋に定植、冬を越して収穫する葉茎菜類は、一定の大きさとなった苗が寒さに当たると「とう立ち(抽苔)」の準備を始めます。これを低温感応といいます。そして、気温が上がってきた春ごろに「とう立ち(抽苔)」が起こります。

そのため、年内の管理では大苗にならないよう過度に生育をさせないことが重要です。

対策としては

- ①大苗での定植を避ける。
 - ②極端な早植えを行なわない。
 - ③過剰な元肥の施用を行なわない。
- 品種間の違いはありますが、玉ねぎでは茎の直径(葉鞘径)が6mm以上となると低温に反応し、とう立ち(抽苔)の準備を始め、大苗になればなるほど低温に反応しやすくなります。

ソラマメ

秋に定植し、実を収穫する野菜は、大きくなる(一般的に本葉が5枚以上)ことで耐寒性が弱くなり寒害を受けやすくなります。

防ぐためには、年内は活着を促す程度の管理までしておきましょう。なお、夏野菜で使った一発肥料などの肥効が長いものは適していません。

各品目の専用肥料や一般的な肥料(野菜有機化成など)を使用するようにしてください。施肥量についても品目に合わせた適切な施肥を行ないましょう。



親子で農業体験 in 三原 2025 ~稲刈り体験~

三原市高坂町で9月13日、稲刈り体験を開催しました。小学生親子12組34人が参加し、鎌を使って稲を1株ずつ刈り取りました。収穫後は割りばしやすり鉢を使って脱穀から精米までを体験しました。



白米になるまでの
工程を学習!



コンバインの
乗車体験!



もっと! みはらニュース!

8/20
・21

「アグリフード EXPO 東京」で柑橘PR!

JAせとだ柑橘事務所は、東京ビッグサイトで開かれた、国産農林水産物・食品の商談会「第18回アグリフードEXPO東京2025」に出展しました。柑橘を使ったマーマレードやくずきりなどのギフト商材をはじめ、調味料やお菓子などの加工品を展示し、瀬戸田町産の柑橘をPRしました!

農業用資材の
廃棄物の回収について

農業用資材の廃棄物回収を三原市および竹原市内を対象に実施する予定です。農業用廃プラスチック類、農薬および空容器は産業廃棄物に指定されており、農業者自らの責任で適正に処理することが義務づけられています。当JAにて廃棄物回収等の事務代行を行ないますので、ぜひご利用ください。
※詳細につきましては次号でお知らせいたします。



11月 お知らせカレンダー

※予定が変更する場合があります。
ご了承ください。

【アグリセンターの休日】

三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原

【営業時間】

8:30 ~ 17:00

【年金相談会 開催時間】

10:00 ~ 16:00

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原	三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原						三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原					年金相談会 幸崎支店	三原ふれあいまつり	三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原	廃プラ回収 竹原地域	廃プラ回収 竹原地域		廃プラ回収 三原地域			三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原	三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原					三原 三原西 本郷 久井 鷺浦 せとだ 竹原	